

野 牛 山 登 山

青少年山の家から南西に望む山々を野牛山（やぎゅうさん）と呼んでいます。登山道がついている一番高い山が野中山（のなかやま）で、標高 539.2mあり、連なるもう一つの峰と姿が、ちょうど牛が寝そべっているように見えることから、その名がつけました。札幌市のシンボルである藻岩山（531m）とほぼ同じ高さです。（標高です。）

青少年山の家を出発し、植栽された樹木やシラカバ林を見ながら、舗装された道路を歩きます。登山道入口ゲート（鍵付き）から、林道へ入ります。登山口からは、カラマツの人工林やミズナラ、ホオノキ、ノリウツギ、センなどの樹木に囲まれた登山道が続き、薄暗くて真夏でもひんやりしています。山頂近くは、ロープにつかまっただけの急坂となり、登山の醍醐味を味わえます。山頂からの眺めはよく、南西方面の木々の切れ目からは、遠くの山々を望め、また、西から北の方向には札幌の街並みが広がり、天気の良い日には日本海を見ることもできます。野牛山は市内では支笏湖寄りに位置していますので、恵庭岳や樽前山などの北海道の雄大な山々を近くに見ることもできます。

1. コース概要

（1）所要時間

頂上往復（園路経由）コース

- ・登り 2 時間 00 分
- ・下り 1 時間 30 分

※休憩含め、往復 3 時間半以上で計画をお願いします。

（2）ルート

青少年山の家→南駐車場トイレ→まきば橋→園内ルート→階段→
登山口ゲート（鍵付）→登山道入口ゲート（鍵付き）→標識→林道到着地点→
登山口→渡渉点→頂上

2. 活動の準備

（1）各団体で用意するもの

雨具、タオル、リュックサック、水筒、救急用品、その他必要物品

（2）青少年山の家で携行をお願いしているもの（貸出物品）

無線機、ハチ撃退スプレー、ヒグマ撃退スプレー、鈴

※ ハチ撃退スプレーやヒグマ撃退スプレーは、必ず職員から使用法等のレクチャーを受けてから携行してください。（試し射ち等は絶対にしないでください）

（3）服装

- ・長袖シャツ、長ズボン、軍手の着用。→虫刺されや草かぶれ、怪我防止
- ・帽子の着用→日射病、熱射病防止、頭部保護のため
- ・首にタオルを巻く→マダニの侵入を防ぐ

3. 実施上の留意点

登山は気象などの自然現象の影響を受けやすく、これにより事故発生の危険も伴います。準備には万全を期してください。また、当日の判断だけでなく前日・前々日の天候が影響を及ぼすことがあります。青少年山の家にて電話等にて確認し、参考にしてください。

(1) 事前準備と指導

- ① 登山コースについては、必ず下見を行ってください。
- ② 指導者の役割分担及び参加者の班編成、係分担を明確にし、協力して安全に実施できるように配慮してください。
- ③ 参加者の健康状態を十分に把握し、参加できない方の過ごし方についても配慮してください。
- ④ 安全確保と自然愛護のため、装備及びマナーについて事前指導を徹底してください。
- ⑤ 登山コース中のトイレは、南駐車場と森の情報館の2か所しかありません。出発前にトイレを済ませておいてください。
- ⑥ 登山コースは大変滑りやすいので、小雨時の代替ハイキングなどを計画しておくことをおすすめします。

(2) 活動にあたっての配慮

- ① 出発と帰館の際には、青少年山の家職員に報告をしてください。出発時には無線機等の物品を借り受け、登山道入口ゲートの鍵番号を確認してください。また、貸出物品は帰館後に忘れずに返却してください。
- ② 活動は団体の責任において実施してください。
- ③ 出発前、指導者は参加者の健康状態及び装備の点検を行ってください。
- ④ 登山中、指導者は参加者の人数や健康状態の把握に努め、疲労・怪我をした参加者が出た場合は適切な対応をしてください。なお、事故発生の場合は無線機で青少年山の家連絡し、かつその場で応急処置を実施してください。その際には時間、症状などの記録をとっておいてください。
- ⑤ 登山道は国有林です。火気には十分注意するとともに、植物等の採取・伐採は禁止されていることを参加者に伝えてください。
- ⑥ 弁当箱やおやつ等のゴミはすべて持ち帰り、自然環境の維持に努めましょう。
- ⑦ 当日、雷注意報等の気象警報が発令の際は、登山を中止させていただくこともございますので、代替プログラムの計画をお勧めいたします。

注 意

◆スズメバチ

夏から秋にかけては、スズメバチの活動が活発になる時期です。もし縞模様で茶褐色の球体の巣を見つけたら、絶対に近づかないで下さい。また、ハチに出会っても追い払ったりせず、刺激しないようにし、ハチが去るのを静かに待ちましょう。特に8～9月頃のハチは危険で、黒っぽくて動くものに対して警戒し集まるため、服装は白っぽいものが良いようです。飲みかけの缶ジュース等甘い物にも集まるので、十分注意が必要です。特にアレルギー体質の人や、一度刺された経験のある人は、刺されると命に関わることもあるので、十分な注意が必要です。

◆マダニ

人や動物につき、皮膚にくいこみ血を吸います。時間がたち、深くくいこまれると医療機関の受診が必要となります。予防のため、コースから外れて林や藪に入ったり、周りの植物に触れないようにしましょう。休憩時や帰館後は、必ず衣服や帽子など身につけているものを調べましょう。

◆ウルシ

気をつけたい植物の一つにウルシがあげられます。コース内にはヤマウルシ・ツタウルシが自生しており、触るとかぶれます。人によっては近づくだけでもかぶれますので、必ず軍手・長袖・長ズボンを着用しましょう。ツタウルシは樹木の幹や岩上をはい上がっていきます。小葉は3枚、卵形～だ円形で、長さ5～15cm、幅で3～8cm位です。秋の紅葉が美しいのも特徴です。一方、ヤマウルシは樹高3m位で、若枝や葉柄は赤色を帯びています。小葉は13～17枚あり、形は卵形～だ円形、長さは5～10cmで裏に毛が多く、紅葉もします。

◆ヌルデ

ヌルデは落葉樹の低木で、ウルシの仲間です。ヤマウルシにそっくりですが、花と葉に特徴があり、区別できます。ウルシよりは弱いですが、触るとかぶれる人もいます。肌の弱い人は近づかない方が良いでしょう。葉の軸にはひれ状の翼葉があり、七から十三枚の奇数枚で複雑です。秋には紅葉もしますが、葉には虫こぶができることが多くちょっと見た目は不気味です。